

恵那の農業・農村を支える人材育成

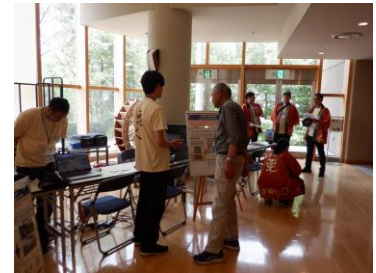
■クリ 第32回全国クリ研究大会岐阜県大会を開催

国内のクリ生産は、担い手の高齢化やクリの高樹齢化に伴い収穫量の減少が懸念されている一方で、栗菓子の需要拡大により供給不足となっている。この課題に対応していくために7月25日、26日に第32回全国クリ研究大会岐阜県大会が、岐阜県の中津川市と恵那市で開催され、328名が参加された。

農業普及課では、大会の運営と展示を担い、展示ではVR剪定技術学習支援システムとEラーニングシステムの2つのスマート農業機器のPR活動を会場で行った。VR剪定学習支援システムはVR（仮想空間）内に各樹齢のクリの樹を再現し、その中で剪定指導を行えるもので、樹齢毎の剪定ポイントの学習が可能である。Eラーニングシステムは、クリ栽培における学習問題と剪定方法等の事例動画の視聴を繰り返し学習することで、クリ栽培の理解を深めるというものである。実際に見て触れてもらうことで、多くの生産者に興味を持っていただき、好評であった。県外生産者からは「このような取組みは初めて見た」「自分の地域にも欲しい」という声が挙がり、本大会により県内外に対し東美濃クリ産地がクリ振興のために行っている取組みをアピールできたよい機会となった。



【開会のあいさつ】



【Eラーニングシステムの説明をしている様子】

農業普及課としては、本大会の課題にもあるとおり、担い手の高齢化等に対応するため、VRやEラーニングシステム等のスマート農業技術を活用し、東美濃クリ産地の剪定技術の伝承と担い手育成に力を入れ、持続的なクリ栽培への支援を続けていく。

(園芸産地支援第二係)